

京都市文化観光資源保護財団

会報

NO. **79**

2000. 7. 1

もくじ

—寄稿—

「京の今と昔」

写真家 中川 邦昭 P 2

—保護財団の活動—

P 6





京の今と昔

中川邦昭

京都は、明治の末から大正期にかけて、京都市三大事業と呼ばれる都市計画が実施され、近代都市としての基盤が形成された。この三大事業とは、水利事業（第二疏水開削と発電事業）、上水事業、道路拡張事業と市電敷設事業を指す。ここに紹介する写真は、明治の初めから末期に撮られた写真である。つまりちょうどこの京都市三大事業が実施される前後に撮られたことになる。

まず、表紙の写真は、三条大橋から鴨川の上流を撮った、明治の中ごろと思われる写真である。現在のような河原やみそそぎ川はなく、民家の石垣が直接川に接している。河原は、昭和十年に起こった鴨川の大氾濫のあとに造られたそうだ。民家の石垣にははしががかかっており、



烏丸線：烏丸通丸太町上ヨリ南向



表紙写真「SANJIYO AT KIOTO」

川岸を丸太でどどめした部分に降りられるようになっている。どどめ部分の縁に渡した水平の板からはさらに2、3段の階段が水面まで伸びている。この写真では上流のほうに一艘の小船が写っているだけで民家の並ぶ川岸には一艘の船も見あたらないが、水面に渡したこの板台は船着場としても使われていたのだろうか。水中から伸びた太い杭に船をつないだものと思われる。当時の鴨川も今の鴨川と同じように浅瀬で、底



現在の烏丸通丸太町

の平らな小船なら浮かべることができたようだ。川ではアユ、フナ、ゴリなどの川魚が取れた他、料亭や席貸しが川遊びの船を出していたようだ。そして、鴨川の夏の風物詩といえば納涼床である。この写真には写っていないが、当時も現在と同じように夏になると川の上に床が組まれた。しかし、この頃の床は今は形態が異なっており、川の浅瀬にショウギを置いて床としていたそうだ。写真に写っているのは上木屋町にあたる。上木屋町には料亭や席貸しが多かった。写真の鴨川は、人影もほとんどなく寂しい感じがするが、川岸の中央近くで川の中につかって作業している男性の姿が見られることから夏に近い鴨川の情景であろうと思われる。

本文中の写真に写っている烏丸通りは現在の通りよりもかなり道幅が狭い。しかし、当時は今のようにビルやマンションなどの高い建物もなく、逆に空が広く開けており、広々とした印象を受ける。この辺りは住宅街であったのか、人通りもほとんどなく、現在の烏丸通りとは隔世の感がある。この日は祭日だったのか、家の戸口には日の丸がたっている。写真の左隅には御所の石垣と植物が見える。烏丸通りから丸太町通りに曲がりこむように、すでに市電の線路が走っている。

千本通りは、西陣の活況を反映してか、にぎやかな商店街が並び、人通りも多い。明治44年という時代にもかかわらず、洋服を着た人もたくさん見られ、左手前にはかわいらしい洋服を着た女の子が立っている。通りの真中を歩く人影の中と画面の向かって左側には、着物にこうもり傘という出で立ちの男性も見え。交差点の角に立ってこちらを見ている人物は、この写



千本大宮線：千本通今出川ヨリ南を望ム



現在の千本通今出川

真を撮る作業に関係した人物らしい。本文に紹介した3枚の写真すべてに服装は異なるが同じ人物が写りこんでいるからだ。交差点の右角に写っている店は化粧品屋で、中央には服地屋、紙屋、左角には薬局が写っている。当時の日用品を売っている店が軒をつらねている様子がわかるだろう。

最後は烏丸通りより七条停車場を望んだ写真だ。この七条停車場とは現在の京都駅のことで、明治10年に建設された初代の京都駅である。正

面の駅にはたくさんの人が集まっている。当時の記録によればこの写真は明治43年11月に撮影されたとあり、この日は11月3日の天長節か11月23日の新嘗祭だと思われる。左手前の建物に日の丸がかけられているのが見える。駅舎は洋風のモダンな建物で、煙突からは煙が出ている。右手前の烏丸通り沿いの建物には大きな火の見やぐらがかけられている。この火の見やぐらは高さを出すためにスライドできるように二重になっているようだ。千本通りや丸太町付近の烏丸通りに比べて比較的広く見える烏丸通りには、一台の人力車が見えるだけだ。しかし、駅舎の前には現在のタクシー乗り場のように入力車が客待ちをしている様子が見える。左側奥の二階建ての洋館の前には馬が繋がれているのが見える。現在の京都駅は、初代から4代目にあたり、つい最近駅ビルも新しくなり、写真当時の面影はまったく残っていない。このように京都駅の変遷を写真で追ってみるのもおもしろいかもしれない。

都市としての利便性が追求されると、当然のようにそれまでの街の外観も変わってくる。観光都市である京都は現在の写真を見てもわかるように、これからどうやって古都としての独自性を残していくかという問題に直面しているといえるだろう。最近、京都の中心街を歩くと、町家を改造して喫茶店やレストランにしているお店がよく目に入る。このような町家の再利用法は、これからの京都の町づくりを考える上で大きなヒントになるのではないだろうか。町家



烏丸線：烏丸通り七条停車場前ヲ望ム



現在の京都駅附近

を壊して近代的なビルを建てるだけではなく、町の外観を壊さずに中身の利用法を変える、という考え方があっていいのではないだろうかと思うのだ。だからといって、個人がどういう家を建てるか選択の自由が制限されるようなことがあってはならないが、個人が町家を残したいと思えるような町をつくっていききたいものだ。

(ナカガワフォトギャラリー・写真家)

文化財を火災から守るために

去る5月9日未明、京都市左京区大原の寂光院の本堂が、又同じく5月20日未明には京都府美山町北伝統的建造物群保存地区内の茅葺山村歴史の里民俗資料館の主屋等が相次ぐ放火による火災で全焼し、重要文化財の仏像などが焼損しました。

文化財関係の社寺等の火災は、京都市内ではこれまでに106件の出火件数を数え、出火原因のうち特に放火による火災が発生件数全体の約半数を占めているのが現状です。(表参照)

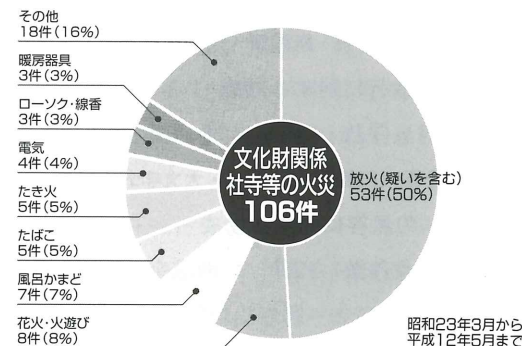
文化財は、先人が永年にわたって護り伝えてきたかけがえのない財産であり、火災による貴重な文化財の毀損は、私達にとって取り返しのつかない損失です。

文化財を放火などの火災から守るためには、文化財の所有者管理者の十分な自主防火管理の徹底もさることながら、初期消火のための防災施設の完備と消防及び関係機関と地域ぐるみが一体となった防災対策をより一層進めていかなければなりません。

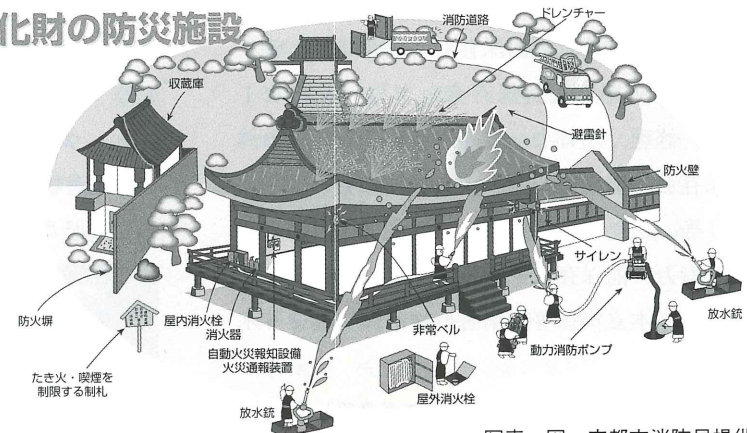
当財団においても、これまでも文化財所有者管理者が行う防災施設の設備、整備などに対する助成や文化財関係行政機関、関係団体と文化財防災対策連絡会を設置し、定期的に会議をもち文化財の防災についての協議や街頭



放火火災事件で焼失した寂光院本堂



文化財の防災施設



写真・図 京都市消防局提供

広報活動などに取り組んでおります。今後とも、関係機関とともに更に文化財の防災に取り組んでいく所存ですが、一人ひとりのご理解とご協

力が必要ですので、皆様のより一層のご支援をお願い致します。

財団法人冷泉家時雨文庫一絹本着色「四季行事図」六曲一隻屏風修理

●その他施設の部 2件 370万円

財団法人京都古文化保存協会一松毛虫駆除事業、財団法人霊山顕彰会一霊山一帯及び各招魂社周辺整備

◆伝統行事芸能の保存執行に対する助成

対象件数 40件 助成金 928万円

●行事の部 14件 447万円

嵯峨御松明、賀茂競馬、藤森駈馬、糺の森流鏑馬、鞍馬竹伐り会、花背松上げ、広河原松上げ、雲ヶ畑松上げ、烏相撲、瑞鑽祭、北白川高盛御供、日野裸踊、鞍馬火祭、松尾祭桂川舟渡御

●芸能の部 26件 481万円

蹴鞠、雅楽、壬生大念佛狂言、神泉苑大念佛狂言、千本えんま堂大念佛狂言、嵯峨大



修復された知恩院の蓮華蔵

念佛狂言、吉祥院六斎、久世六斎、中堂寺六斎、梅津六斎、小山郷六斎、千本六斎、嵯峨野六斎、壬生六斎、円覚寺六斎、西方寺六斎、桂六斎、川上やすらい花、今宮やすらい花、玄武やすらい花、上賀茂やすらい花、久多花笠踊、八瀬赦免地踊、松ヶ崎題目踊、大原八朔踊、上棟祭

平成11年度 文化観光資源保護事業助成

平成11年度の保護事業助成について、四大事業の保存及び執行をはじめ、文化財所有者、管理者等のおこなう文化観光資源の建造物、美術工芸品等の保存修理、伝統行事芸能の保存及び執行の保護事業68件に対し、次のとおり総額6,426万円の助成をおこないました。

◆四大事業（葵祭・祇園祭・大文字五山送り火・時代祭）の執行に対する助成

対象件数 4件 助成金 3,948万円

◆四大事業（祇園祭山鉦修理・大文字五山送り火火床整備）の保存に対する助成

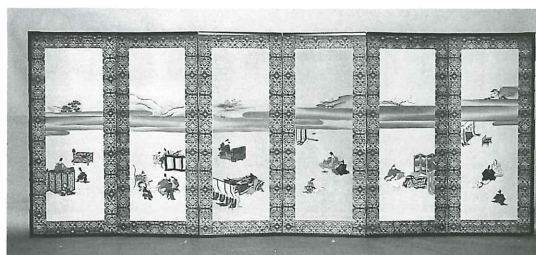
対象件数 15件 助成金 720万円

橋弁慶山保存会一駒形提灯新調、浄妙山保存会一辻提灯建修理等、月鉦保存会一鉦力貫修理等、長刀鉦保存会一車軸新調、四条傘鉦保存会一傘（御神体）修理、郭巨山保存会一駒形提灯新調等、鯉山保存会一収蔵庫（土蔵）修理、祇園祭船鉦保存会一車輪（後輪右1個）修理、鶏鉦会一音頭取綱新調等、綾傘鉦保存会一締太鼓新調、大文字保存会一下草刈り等、松ヶ崎妙法保存会一妙法火床清掃等、船形万灯籠保存会一下草刈り等、左大文字保存会一本立伐採等、鳥居形松明保存会一貯水槽整備等

◆文化観光資源（建造物・美術工芸品等）の保存修理等に対する助成

助成文化財の紹介

一絹本着色「四季行事図」屏風一



財団法人冷泉家時雨亭文庫 所蔵

冷泉家は、藤原定家の孫、為相（1260～1328）によって創建された和歌の師範家の一つで、京都市内に現存する唯一の公家屋敷を伝えています。

当屏風は、江戸末期から明治初期の作品で四季の行事を題材にしており、現在当家の行事などの際に使用されているものです。虫害、老朽化などによる損害著しいため、このたび修復されました。

対象件数 9件 助成金 830万円

●建造物の部 6件 420万円

常照寺一本堂屋根葺替工事、賀茂御祖神社一摂社河合神社幣殿等屋根葺替工事、知恩院一蓮華蔵修理工事、光縁寺一本堂修理工事、隣華院一庫裏修理工事、瑞光寺一本堂・表門屋根葺工事

●美術工芸品の部 1件 40万円

◆会議報告◆

◆史跡管理専門委員会

3月28日、4名の委員出席のもとに開催し、京都市より受託している20か所の史跡、名勝、天然記念物の平成11年度維持管理状況の報告や、平成12年度実施予定の取組みなどについて審議し、管理について適切な助言を得ました。

◆第55回理事会評議員会

4月18日に開催しました第55回理事会評議員会におきまして、役員の一部異動、任期満了に伴う役員改選、平成11年度事業報告並び



に収支決算、平成12年度事業計画並びに収支予算について審議され、それぞれ原案のとおり承認されました。なお、新任役員の方々は、以下のとおりです。

新任役員（敬称略・順不同）

専務理事 中野代志男（京都市文化市民局長）
理事 高木 壽一（京都市副市長）
理事 植田 紳爾（阪急電気鉄道株式会社常務取締役）
評議員 津田 幹雄（京都市会文教委員長）
評議員 蓮 清典（浄土真宗本願寺派総長）
評議員 古沢熙一郎（中央三井信託銀行株式会社社長）
評議員 中野 豊士（三菱信託銀行株式会社会長）
評議員 荒木 浩（東京電力株式会社会長）
評議員 庄山 悦彦（株式会社日立製作所社長）

文化観光資源保護協力者2団体・15名、 伝統行事芸能功労者14名を表彰

平成11年度文化観光資源保護協力者感謝状贈呈式、伝統行事芸能功労者表彰式を、第55回理事會評議員會終了後おこないました。京都市文化観光資源保護基金に多額の寄付を寄せていただいた方々と京都の伝統行事芸能の保存継承に貢献された方々に上山理事長より感謝状、表彰状が贈呈されました。受賞者は次の方々です。

◆文化観光資源保護協力者（敬称略・順不同）

〔団体の部〕 株式会社一保堂茶舗、岡秀株式会社

〔個人の部〕 三上榮一、高橋政幸、岩佐氏昭、清水吉嗣、橋本貞造、新井寛、松本武士、川内宗淳、堺清治、永尾正章、有本安喜子、田中スエ子、高島国男、中西徳太郎、大嶋真治



受賞者のみなさん

◆伝統行事・芸能功労者（敬称略・順不同）

梅田義昇（嵯峨御松明保存会）、鋸屋政夫（花背松上げ保存会）、荒田政明（神泉苑大念仏狂言講社）、戸田義雄（千本ゑんま堂大念仏狂言保存会）、長谷昌次郎（番匠保存会）、北村達雄（桂川舟渡し保存会）、塩田純基（嵯峨大念仏狂言保存会）、黒田司郎（千本六齋会）、内藤芳次（嵯峨野六齋念仏保存会）、前田勲（西方寺六齋念仏保存会）、川端甚三（玄武やすらい踊保存会）、上河原善（久多花笠踊保存会）、岩崎富雄（松ヶ崎題目保存会）、羽栗直和（北白川伝統文化保存会）

◆◆◆ 文化観光資源公開事業実施報告 ◆◆◆

会員の皆様をはじめ多くの方々に京都の文化財などに親しんでいただくため、これまでに下記の事業を実施しました。

◆京都市指定有形文化財京町家「杉本家住宅」特別公開を実施

11月11日～21日、京都市指定有形文化財の杉本家住宅の特別公開を実施し、当住宅の座敷内部の初めての公開ということもあり、期間中3,036名の見学者を数えました。

◆文化財特別参観 京の文化財探訪「妙心寺塔頭龍泉菴と東海庵を訪ねて」、「紅葉の尼門跡寺院 霊鑑寺を訪ねて」を実施

当財団が主に保護事業の助成対象としました文化財を紹介し、文化財特別参観を実施しました。第1回目は、10月1日～3日に2,131名の見学者のもと妙心寺塔頭寺院「龍泉菴と東海庵」を又、第2回目を11月



妙心寺塔頭龍泉菴と東海庵を訪ねて

20日～24日に4,554名の見学者のもと「霊鑑寺」を対象に、それぞれ文化財を見学していただきました。

◆世界文化遺産「古都京都の文化財」特別鑑賞を実施

京都市からの受託事業として、世界文化遺産「古都京都の文化財」17社寺・城の中から、賀茂別雷神社（上賀茂神社）と賀茂御祖神社（下鴨神社）を対象に延べ1,704名の見学者のもと実施し、両神社の文化財を見学していただくなど、世界遺産の普及啓発につとめました。

◆文遊回廊「京の雅を訪ねて」を実施

京都の隠れた文化観光資源などを、体系的にテーマ別に紹介することを目的としています。文遊回廊事業を去る3月3日～12日、3月19日～4月9日にわたり延べ36,160名の見学者のもと実施しました。今回は、京の雅をテーマに、6か寺の尼門跡寺院を対象に文化財を見学していただくなど京都ならではのみやびの文化に触れていただきました。

◆第10回京の歳時記展「映像に見る近代京都の生活文化」を開催

11月18日～12月21日京都市四条ギャラリーを会場に開催しました。今回は、西暦2000年をむかえるにあたり、近代京都の市民の生活文化をテーマにとりあげ、写真資料で紹介するとともに、京都最古といわれる肖像写真や写真機などの実物も展示し、京都の写真史についても紹介しました。

又、初日には写真家中川邦昭氏の「京都写真小史」の講演や京都市文化市民局文化財保護課村上忠喜技師による展示解説もおこなうなど期間中2,459名の鑑賞者を数えました。

◆第30回京の郷土芸能まつり「都の賑わい 祭り まつり」を開催

京都の民俗文化財などの保存育成を図ることを目的に当財団設立以来、開催しています京の郷土芸能まつりを去る2月27日京都会館第1ホールにて約1,300名の鑑賞者のもと開催しました。今回は、第30回公演記念として、京都市の民俗芸能に、京都府亀岡市の「佐伯灯籠人形浄瑠璃」や小京都である岡山県高梁市の「備中神楽」の特別出演を加えるなど、多彩な芸能を一堂に舞台上で鑑賞していただきました。



世界文化遺産「古都京都の文化財」特別鑑賞



文遊回廊「京の雅を訪ねて」



第10回京の歳時記展「映像に見る近代京都の生活文化」



第30回京の郷土芸能まつり「都の賑わい 祭り まつり」

募金にご協力いただき
ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）

法人及び団体の部

〔特別会員〕	
※ 岡秀株式会社	＜21,000,000円＞
※ 住友信託銀行株式会社京都支店	＜18,409,000円＞
※ ケイコン工業株式会社	＜850,000円＞
〔普通会員〕	
※ 土屋便利堂	＜290,000円＞
※ 株式会社岩佐商店	＜250,000円＞
※ 株式会社みはし沼田店	＜100,000円＞
※ きのの紺忠	＜100,000円＞
〔賛助員〕	
※ 中喜株式会社	＜91,000円＞
※ 有限会社東海設備工業	＜30,500円＞
※ 平安雅楽会	＜20,000円＞
※ 長慶院	＜10,000円＞
※ 薬師寺	＜10,000円＞
※ 退耕庵	＜5,000円＞

個人の部

〔特別會員〕		<2,900,000円>
伊清高岡大高田加高脇大鹿岸栗上米甲安三池岩清原西太辦佐中石奥清松平辻上井前田梅末有田中永	彦嗣幸止治男雄男男實子二吾子子清幹夫英夫三子代男次晃造子子二郎士子司藏郎美子子武子子郎章	<1,150,000円> <1,050,000円> <475,005円> <410,000円> <400,000円> <316,500円> <310,000円> <308,000円> <280,000円> <260,000円> <251,000円> <250,000円> <233,000円> <230,000円> <230,000円> <225,000円> <221,000円> <200,000円> <190,000円> <190,000円> <180,000円> <180,000円> <176,000円> <170,000円> <167,000円> <160,000円> <160,000円> <150,000円> <150,000円> <150,000円> <147,000円> <130,000円> <125,000円> <123,000円> <120,000円> <111,000円> <110,000円> <110,000円> <105,000円> <105,000円> <100,000円> <100,000円>
砂水橋本嶋島尻勢橋田嶋島本林山川斐田嶋本井水山村田官藤埜田村水本野本村田田村原沢本中西尾	利吉政保真國正滿一貞照仁幸志保孝隆貞玉喜達錠弘敏康美俊史昭清芳喜富芳悅安久德正	
〔普通會員〕	子一き子子郎二敷三治	<98,000円> <90,000円> <80,000円> <80,000円> <80,000円> <78,000円> <77,000円> <77,100円> <76,000円> <75,000円>

瑛稔
子
雄山子滋
夫子男司美
広實三已雄
忠
江淳男子市
恵子子世雄
稔宏子弘三
久也子弘之
嘉豐二子隆
三康子子作
昭次平子子
一子子子弥
之江保子子
ネ男嗣一幸
ミ子彦美健
子彦久義一
正成

啓良和義泰澄
昭康義廣一勝
善直外好熙
信朝庫清正治茂
蓉義博達敏嘉博多
希美代
傳德美澤和新
慶藤之範か
精和美裕久直
都重邦民ツ佳
久召則り京秀
政弘嘉直忠正
重

鳴水寺本村鋸上田谷藤廣間西丸込田野
林原棲木田
田邊附島森内出原原田田野黑橋見伯藤木長口廣川橋本辺原藤隅間村野
野原田村
部藤部間田村田村代林木村野辻岡森山
助岡中村良

寺垂小杉
大江坂仲佐高赤
赤杉渡西淺林小
舞五佐島畑山渡
岩高東熊西萩秋
中和德石大淺佐
進高谷友中古山
渡吉後大勝西佐
臨園矢小柴竹環
安伊磯岩上奥岡
與上小鈴谷出中
花藤村實岡吉田
梅吉

<75,000円>
<73,000円>
<70,000円>
<66,000円>
<60,000円>
<60,000円>
<58,000円>
<56,500円>
<53,000円>
<51,000円>
<50,220円>
<50,000円>
<50,000円>
<50,000円>
<49,000円>
<48,000円>
<47,000円>
<45,000円>
<45,000円>
<43,600円>
<40,000円>
<40,000円>
<40,000円>
<40,000円>
<39,000円>
<38,000円>
<38,000円>
<36,000円>
<35,000円>
<35,000円>
<35,000円>
<35,000円>
<34,000円>
<33,000円>
<33,000円>
<31,000円>
<31,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<30,000円>
<29,000円>
<28,000円>
<27,000円>
<26,000円>
<26,000円>
<25,000円>
<25,000円>
<23,000円>
<23,000円>
<22,000円>
<22,000円>
<22,000円>
<22,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<20,000円>
<19,000円>
<19,000円>
<18,313円>
<18,000円>
<18,000円>

男子作子子信^{佐規}久子雄代夫一子枝代子雄子さ子子子宏子郎勝子子夫理琴子美子子ト亮子子乃義^{志ク}美子明幸子行隆一え次子子一広夫広香夫江次子子子子子亮子美子次子男子一子司子
益初雄富由^美ミ直造敏多一^三佐幸和節久利愛ち嘉康和美正啓崇^三時和俊^三眞和朱代フサ^三恭満紀淳政マ^三リ^三二晴^三宗き晃兒^三ア高好春好静哲よ徳紀泰^三登順昌素^三喜普昌由清征洋敷昌忠旬^三

川本 岡 内田田井田和川井下見川山野竹川井上中村村田瀬 瀬内藤井川田木下田原本竹田森田野桐戸原木村 川田本 田辺野田門野門本山中 瀬路上池本林上山見鳴鳶爲田田井井井藤

平瀧堀堀吉辻竹岡松松石磯今木塩窪陰矢大小福村田上上内貴林深池佐仲中前八山石神山吉池大岡小片嘉篠鈴田西古増松南山渡浅稻上宇上岡柴田長峠広森井小坂中池内楠中波波原吉福今金近

[illegible][illegible][illegible]

（※印は、追加寄付の篤志者、なお、編集の都合により今回ご紹介出来ませんでした寄付者の方につきましては、今後順次紹介させていただきますのでご了承下さい。）

平成12年度 事業計画

I. 文化観光資源保護事業

1. 文化財所有者、管理者等の行なう文化観光資源の保存修理、防災施設整備等の保護事業に対する助成

2. 四大行事並びに伝統行事、芸能の保存及び執行に対する助成

3. 文化観光資源管理

京都市嵯峨鳥居本町並み保存館の管理運営、京都市管理の史跡・名勝・天然記念物21か所の保存管理

4. 文化観光資源に関する調査研究

伝統行事芸能の実態調査及び写真記録、助成対象文化財の実態調査及び資料の収集

5. 文化財保護行政機関などとの協議

II. 文化観光資源保護思想の啓蒙普及事業

1. 会報の発行

2. 文化観光資源に関する印刷物の発行

文化財カレンダーの発行、「近代京都の名建築」等調査報告書の配布、「京都市文化財ボックス」の受託販売など

3. 文化観光資源公開事業の実施

文遊回廊・文化財特別参観・京の歳時記展・京の郷土芸能まつりなどの実施

4. インターネットによる情報発信

5. 京都市文化財保護普及啓発事業の受託

6. 伝統行事芸能功労者並びに文化観光資源保護財団協力者に対する表彰

7. 京都市文化観光資源保護協力者（会員）に対する招待事業

京の三大祭の観覧、文化観光資源公開事業、文化財カレンダーの配布など

8. 文化観光資源保護関係団体などがおこな

う各種事業の後援

9. 報道機関による啓蒙活動の積極的推進

III. 募金活動

1. 現会員に対する追加募金の呼びかけ

2. 市民募金運動の推進として啓蒙普及事業を通じての新規法人、個人募金の呼びかけ

編集後記



□相次ぐ放火により寂光院（京都市左京区）の本堂など貴重な文化財が焼失しました。本文で被害状況の一部をご紹介しますが、今後更に文化財防火の万全に努めていかなければなりません。皆様のご協力をお願いします。

□本号では、京都の歴史文化にも造詣の深い写真家の中川邦昭氏から御自身が所蔵されている古写真をもとにしたご寄稿を寄せていただきました。これらの映像資料は、近代京都の歴史や文化、市民生活などを理解するうえで貴重な資料といえます。

京の文化遺産を守る募金にご協力を

皆様からお寄せいただいています募金は、保護基金として京都の文化遺産などの保護や普及啓発事業に充てられています。

会員の皆様からの追加募金や、新規会員の方の呼び掛けにも一層のご支援とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

会 報 No.79

2000.7.1

会 報 題 字／理事長 上山善紀

会 報 表 紙／SANJIYO AT KIOTO

（提供：中川邦昭氏）

編集・発行／財団法人京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内

〒606-8342 TEL 075 (752) 0235

FAX 075 (752) 0236